

# 平成30年度 倫理 シラバス

教科名	科目名	履修学年	履修区分	単位数
公民	倫理	2学年 文理系	必修（文理系）	2

## 1. 公民科の目標（学習指導要領）

広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。

## 2. 倫理の目標（学習指導要領）

人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

## 3. 倫理の学習目標

- (1) 現在の高校生の実態や現代課題となっている問題についての認識を深めながら、人間の存在や価値についての理解と思索の深化を目指させる。
- (2) 近隣諸国から受容した思想・文化から形成した日本固有の思想・文化について理解を深めることによって日本や日本人としての在り方、ものの見方、考え方について思索することができる力を培う。
- (3) 相互依存の高まる現代の国際社会において、国際平和の確立や人類の福祉に貢献することの意義を理解し、21世紀の国際社会において主体性のある日本人としての在り方、生き方についての思索を深めさせる。
- (4) 先哲の思想を手がかりに、広い視野から人生観・世界観の形成を図ることが出来るようにする。

## 4. 教科書及び補助教材

教科書・・・高校「倫理」新訂版(実教出版)  
資料集・・・最新図説「倫理」(浜島書店)  
ワークノート・・・新倫理ノート(株式会社 啓隆社)

## 5. 授業方法・形態

講義・作業・発表等が中心となるが、グループ学習やディベートなどを取り入れる。  
教科書・資料集・新聞・VTR 教材などを多面的に利用し、ノートをまとめていくことで内容の深化・理解を図る。  
時事問題や国際問題などにも目を向け、他教科や既学習範囲とも関連づけた学習になるように工夫する。

## 6. 評価規準

〈観点別評価〉

### ① 関心・意欲・態度

現代の社会と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

### ② 思考・判断・表現

現代の社会と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

### ③ 資料活用技能

現代社会と人間に関わる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。

### ④ 知識・理解

現代の社会的事象と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

※ 成績評価の方法は上記の4つの観点を柱にして定期考査・授業中の発表・意欲・学習態度・考える力・前向きに取り組む姿勢、課題やノートの提出、豆テストなどから他面的に行う。

## 7. 定期考査

出題範囲は授業の進度に準ずる。教科書・資料集等授業と関連させ出題し、時事問題等も出題する。

# 平成30年度 倫理 シラバス

月	単元名	学習内容・学習のねらい・留意点	配当 時数	進度
4月	<b>第1章 青年期の課題と自己形成</b> <b>第1節</b> 青年期の意義 <b>第2節</b> 青年期の課題  <b>第2章 人間としての自覚</b> <b>第1節</b> ギリシア思想 1. 自然哲学とソフィスト 2. ソクラテス 3. プラトン	・「人間とは何か」「私とは誰か」ということを理解し、学習の動機づけとする。 ・青年期の特徴を、心理学的な定義などを通して知る。 ・アイデンティティとは何かを知り、青年期にアイデンティティを確立することが重要であることを理解させる。  ・哲学を生み出した古代ギリシア人の精神活動や世界観を理解させる。 ・ソクラテスやプラトンの思想を、人間の徳や幸福という観点から理解させる。	6	一学期 中間 考查 範囲
	4. アリストテレス 5. ヘレニズム時代の思想  <b>第2節</b> キリスト教 1. 古代ユダヤ教 2. イエス 3. キリスト教の誕生と展開	・アリストテレスの思想から人間の徳や幸福、国家の在り方という観点で理解させる。  ・キリスト教の母胎となったユダヤ教について、理解させる。 ・イエスの説く律法の内面化、神への愛と隣人愛を理解させる。 ・キリスト教が現在の西洋思想にどのような影響を与えているか理解する。	6	
6月	<b>第3節</b> イスラーム  <b>第4節</b> 仏教 1. 仏教以前のインド思想 2. ブッダの教え 3. 大乘仏教の成立とその教え	・イスラームの成立、宗教的な義務と戒律を中心とするその教えの特徴について理解させる。 ・1年生で学習した世界史の内容と関連付けて、世界情勢についても考察させる。  ・インド思想誕生の母胎となった古代インド社会を概観。 ・ゴータマの悟りの中核とされる中道、四諦、八正道、縁起の法について理解させる。	8	二学期 中間 考查 範囲
	<b>第5節</b> 中国思想 1. 「道」の自覚(孔子) 2. 儒家思想の展開 3. 老荘思想	・中国思想における天や諸子百家の思想内容を儒家・道家の思想を中心に、その歴史的・社会的背景とともに理解させる。 ・1年生で学習した世界史や国語科の漢文の授業とも関連付けて学習する。	6	
9月	<b>第3章 日本人としての自覚</b> <b>第1節</b> 古代日本人の思想 1. 日本の風土と日本人の気質 2. 神とのかかわりと道徳観  <b>第2節</b> 日本の仏教思想 1. 仏教の受容 2. 仏教の日本的展開(鎌倉仏教) 3. 仏教と日本文化	・日本の風土の特徴を理解するとともに、この風土における日本人の生き方について考えさせる。 ・今日の生活の中に見られる日本人の宗教観・倫理観について考察させる。  ・日本に移入された仏教が時代とともに変容していく概要をつかませる。 ・仏教の教えが自分たちの文化や生活にどのような影響を及ぼし、関連しているかについて考察させる。	7	二学期 中間 考查 範囲
	<b>第3節</b> 近世日本の思想 1. 儒学の受容と朱子学 2. 日本陽明学 3. 日本的儒学の形成(古学) 4. 国学の形成 5. 民衆の思想 6. 幕末の思想	・日本に伝えられた儒教が、徳川幕藩体制成立の頃から日本化されていく過程を理解させる。 ・町人文化の隆盛が起こった時代背景を理解させる。 ・古典の研究に始まった国学が、儒学を批判する形を取りながら道の学として大成されたことを理解させる。	8	
10月				

月	単元名	学習内容・学習のねらい・留意点	配当 時数	進度
11月	<b>第1章 現代に生きる人間の倫理</b> <b>第1節</b> 人間の尊厳 1. ルネサンス 2. 宗教改革 3. モラリスト  <b>第2節</b> 科学・技術と人間 1. 近代の自然観 2. 新しい学問の方法(経験論と合理論)  <b>第3節</b> 民主社会と自由の実現 1. 民主社会の形成(社会契約説) 2. 人間の尊厳(カント) 3. 人倫(ヘーゲル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の独自性の自覚と、他者の存在を尊重することによって他者と共に「よく生きる」世界が生まれることを考えさせる。</li> <li>現代社会のものの見方、考え方が近代の人間性尊重の精神に基づいていることを理解させ、その本質について、近代社会の成立を中心に考えさせる。</li> <li>現代社会のものの見方、考え方が近代の人間性尊重の精神に基づいていることをベーコン、デカルトの思想を学習することを通して理解させ、その本質について、近代社会の成立を中心に考えさせる。</li> <li>近代哲学の成立について理解させ、人間の尊厳としての理性主体の考え方が、現代にどのように生き続けているかについて考え、近代において、個人と市民社会がどのようなプロセスを経て確立されたのかを理解させる。</li> <li>カントやヘーゲルが人間の理性能力を吟味し、理性の限界をも明らかにしようとしていたことを理解させるとともに、自由と人格の尊厳を中心にその思想的特徴を把握させる。</li> </ul>	8	一学期 期末 考查範囲
12月	<b>第4節</b> 社会と個人 1. 個人と社会の調和(功利主義) 2. 社会の進歩 3. 社会の変革(社会主義) 主体性の自覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>民主社会における幸福や自由とは何かについて、先人の考え方をヒントに主体的に思索させる。</li> <li>自然科学の発展と人間性の回復とはどう関連しているのかを近代社会の成り立ちとともに把握する。</li> </ul>	6	三学期 学年末 考查範囲
1月	<b>第5節</b> 人間への新たな問い 1. 理性の深層への反省 2. 言葉への反省 3. 理性の働きへの反省 他者へのまなざし	<ul style="list-style-type: none"> <li>19世紀の西欧の社会状況のもとで、実存主義が成立したことを理解させる。個々の思想家が追究した人間の本来的なあり方はどのようなものかを考えさせる。</li> <li>「人間中心主義」とは、どういう歴史的な流れの下で誕生した思想かを考え、現代社会における問題と比較しながら考察させる。</li> </ul>	6	
2月	<b>第3章 日本人としての自覚</b> <b>第4節</b> 西洋思想の受容と展開 1. 啓蒙思想と自由民権思想 2. キリスト教の受容 3. 国家主義の台頭と社会主義思想 4. 近代的自我の確立 5. 近代日本哲学の成立と超国家主義 伝統の自覚と新たな課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>西洋近代思想を支える精神としてのキリスト教を受け入れた先人の信仰と考え方を理解させる。</li> <li>近代化を進める明治期の日本の在り方について、国家主義や国粹主義、社会主義の立場で模索した先人の考え方を捉えさせる。</li> </ul>	5	
3月	<b>第1章 現代に生きる人間の倫理</b> <b>第6節</b> 社会参加と幸福 1. 生命への畏敬と非暴力の思想 2. 正義と福祉 3. 社会のなかの人間  <b>第2章 現代の諸課題と倫理</b> <b>第1節</b> 生命倫理 <b>第3節</b> 家族の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命軽視の傾向が強まる現代社会を鑑み、生命への畏敬を説いた先人の思想を学び、その意義を考えさせる。</li> <li>科学観の転換、科学と社会の関係について考察する。</li> <li>生と死の問題について、具体的な事例を通して考えさせる。</li> <li>高齢化の進行、地域社会の変容など現代社会の課題をふまえ、家族や地域社会のあり方について自分なりに考えさせる。</li> </ul>	4	